

1. 令和5（2023）年度のゼミナール活動の目的と研究助成

令和4（2022）年度に引き続き、今年度のゼミナール活動もSDG'sの目標に関連付けて、日本の現代社会が抱える問題を取り上げ探究するものである。活動の単位として計6班を形成するが、2年生と3年生の混合チームを作り、プロジェクト（後述）に対する貢献について互いの力不足を補う。プロジェクトの遂行を通して、社会人として仕事をする上で必要とされる「予測不可能な事態に対処する力」の取得を目指している。プロジェクトは、ものづくりの現場や生産地の調査に出かけ、実際に木工製品などを制作し、販売する。その過程で、予定外の出来事や困難に出会い、班員が協力して解決方法を見つける必要が出てくる。このような事態に対応することで問題の解決能力を醸成することがゼミナール活動としての目的である。

また、令和4（2022）年度より愛知県立名古屋聾学校高等部専攻科（高等部修了後の専門課程）インテリア科からの申し出を受け、共同で木工制作のプロジェクトを立ち上げ、遂行することになったため、各班に1人以上の専攻科生を配して活動する。木工制作については聴覚障害のあるメンバーが技術指導を行い、全員で相談し、作品のニーズを調査・デザイン、制作する。お互いにコミュニケーションの方法を工夫し、目標達成のために協力をする必要がある。各班に偏りなく専攻科生を配置し、一緒に話し合い、工夫し、作業をすることを通して課題解決能力を身に着けることが、前述「目的」の具体的内容である。

これらの目的を遂行するにあたり、互いの学校を往来するための交通費、プロジェクトの材料費、道具代、展示用パネルなどの経費が必要となる。これらは、名城大学経済・経営学会学生研究助成をはじめ、経済学部の実験実習費、経済学部懇談会費、および「学びのコミュニティ創出支援事業」の御支援のお蔭で初めて実現することを記して感謝申し上げる。

2. 年間計画

ゼミナール活動の1年間の計画には、活動の指標となる行事がいくつかあり、各行事に向けて、プロジェクトは「作品を制作し活動の発表」を行う。主な行事は、名古屋聾学校文化祭、名城大学大学祭、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED）による「障がい者ワークフェア2023」、収益の寄付と贈呈式、そして、経済学部レポートフェスティバルである。初めの三つの行事では、学校関係者や一般の方への活動の発表と作品の販売を行い、収益はすべてSDG'sに資する団体への寄付とすることを周知する。ゼミナールでは、これらの活動や調査、研究の報告と総括をレポートフェスティバルと論文集で行う。

各班で自分たちが最も重要と考えるSDG'sの項目を取り上げ、先行研究、書籍や資料

を調査し、問題の論点を示した上で課題解決策を提案する。この過程に、「折れたバットからアップサイクルをして製品を開発」するプロジェクトを挿入する。たとえば、SDG's の No.16 平和と公正を選び平和のメッセージを届ける鳩のキーホルダーを作ったり、No.4 教育を選び、幼児向けの玩具を作り木育の実践を行ったりする。さらに、これらの取り組みを通して、持続可能な経済発展と日常の暮らしについて考え、研究テーマを設定し、客観的なデータや地方自治体の政策などを各班で調べ、研究発表資料を作成する。ゼミにおける何回かの発表と議論を経て、集大成としてレポートフェスティバルに臨む。

各班別のプロジェクトのテーマは、SDG's の目標に沿った形で、1) 所得格差を是正し誰もが尊厳のある暮らしを守れる社会の実現、2) 障がい者と健常者が共に働く際の課題と解決策、3) 里山の保全や林業への理解を深めるための「木育（もくいく）」の実態と実践、の三つを柱として、細目を班で決定した。

3. 令和5（2023）年度活動内容と成果

1年間のゼミナール活動を時系列で示すと次のようになる。

4月：愛知県立名古屋聾学校インテリア科専攻科と顔合わせと代表生徒（学生）による、互いの学校紹介（プレゼンテーション）、自己紹介と簡単な手話の紹介。プロジェクトのための班の結成と年間計画の決定。

5月：班で取り組むテーマ（SDG's）を決定し、テーマについて研究報告の準備。ゼミ報告をする。共同プロジェクトの作品のアイデアを出し合い決定する。試作品の作成。

6月～9月：研究テーマの探求と木工作品の制作。発表資料の作成、テーマについてのゼミ報告（プレゼンテーション）など。夏休み課題の発表。

10月28日：名古屋聾学校文化祭 活動の発表パネル展示と作品の販売。

11月3日・4日：名城大学祭 活動の発表パネル展示と作品の販売。

11月18日：障がい者ワークフェア2023 活動の発表パネル展示と作品の展示。

12月9日：経済学部レポートフェスティバル テーマの研究報告。論文執筆。

12月12日：プロジェクト収益金の「寄付金贈呈式」（於：東海テレビ）

12月～2月：論文の執筆と提出。

「折れたバットから作品をアップサイクル」するための材料の木製バットは、令和4年（2022年）度以来、愛知大学野球リーグからの提供を受けてきた。今年度もバットは、各大学から集められ、名古屋聾学校に届けられた。12月12日の寄付金贈呈式には愛知大学野球連盟からの代表者と名城大学生、名古屋聾学校専攻科生が出席した。

以上が、令和5年（2023年）度のゼミナール活動の概要である。

令和6（2024）年2月6日